

再生可能エネルギーが拓く 持続可能な経済社会

エネルギー持続性フォーラム公開シンポジウム

2015年2月18日、植田和弘(京都大学)

丸ビルホール、ueta@econ.Kyoto-u.ac.jp

講演の概要

- 持続可能な地域づくりに向けて「再生可能エネルギーと地域のかかわりはいかにあるべきか、どう取り組んでいけば良いか」を考えるために、まず、再生可能エネルギーの特徴と多面的意義を確認する。意義や効果は潜在的、いかに具体化するか
- コミュニティー三原則
- 地域エネルギー経営とは何か
- 地域エネルギー経営による持続可能な地域づくり

再生エネ活用の多面的意義

- ① 新たな電力供給源
- ② グリーン・イノベーションの源
- ③ 分散ネットワーク型電源
- ④ 新しいビジネス・未来産業
- ⑤ 気候変動防止の手段：廃棄制約free
- ⑥ エネルギー施設と地域社会 (ownership)
- ⑦ 市民参加型：社会関係の変化
- ⑧ 地域経済循環の活性化・地域資源・技術

コミュニティパワー三原則

- ①地域社会が**エネルギーをつくることを自ら担い**（地域の利害関係者がプロジェクトの多数もしくはすべてを所有）
- ②どこにどのようにつくるかを**自ら決め**（プロジェクトの**意思決定**はコミュニティの**基礎を置く組織**によって）
- ③事業から得られる**社会的・経済的メリットを地域社会**が得る（社会的・経済的便益の多数もしくはすべては地域に分配）

地域エネルギー経営の着眼点と課題

- 再生可能エネルギーは眠っていた**地域資源**: 地域資源
開発: 発電コスト分析: 水・土・農林水産との親和性
- 光熱費(電気・ガス・灯油・・)支払: 福島県では2000億円
/年: 域外への資金流出にせずに**地域経済循環**へ
- 再生可能エネルギー開発・利用事業: (農山村)生産
(者)と(都市)消費(者): **prosumer**
- 地域資源・経済「FITを核にした再生エネ促進策」開発
- **事業性**(採算性、企業性)と**地域共同利益**
- **地域エネルギー経営**へ

地域エネルギー経営に取り組む

- **事業化**を成功させる：誰がどのように取り組むか：
オーナーシップ、地域エネルギー事業の全体像：ビジョン、推進体制、パートナーシップとネットワーク
- **専門的知識**の獲得とイノベーション・・・専門家と住民
- 地域の**事業者**、**担い手**をいかに増やしていくか
- **地域合意形成**をどうすすめるか
- 地域経済循環と**地域金融機関**の役割
- 地域エネルギー経営と**リスク管理**